

# JAPANESE ART PROGRAM & SEMINAR 2023

講師:高木聖雨

◇派遣期間

2023 年 12 月 5 日(火)～12 月 17 日(日)

◇ジャパニーズ・アート・プログラム開催期間

2023 年 12 月 6 日(水)～12 月 14 日(木)

◇ジャパニーズ・アート・セミナー開催期間

2023 年 12 月 16 日(土)

# 報 告 書

はじめに

この度は、公益財団法人美術文化振興協会のオランダ・ライデン大学との協同事業、「ジャパニーズ・アート・プログラム(The Japanese Art Program)」と「ジャパニーズ・アート・セミナー(The Japanese Art Seminar)」と2つの事業に参加させていただき、このような貴重な機会をいただけたことを心より感謝申し上げます。

講師の派遣期間:2023 年 12 月 5 日(火)～12 月 17 日(日)

ジャパニーズ・アート・プログラム開催期間:12 月 6 日(水)～12 月 14 日(木)

ジャパニーズ・アート・セミナー開催期間:12 月 16 日(土)

## ジャパニーズ・アート・プログラム実施報告

12 月 5 日 17:30 分

アムステルダム空港に着陸、ライデン大学中東・アジア地域研究所教授 イフォ・スミッツ氏の出迎えを受け、宿泊先のライデン市、Golden Tulip Leiden Centre に到着した。

## 12 月 6 日(水) セッション 1 回目 13:15～15:00 [受講生 16 名]

宿泊先からライデン大学までは車で15分程度。午後1時15分からの1回目のセッションの準備のため、約2時間前に大学へ伺い、講義で使用する道具類や計5回のセッションの授業計画等をスミッツ氏と事前打ち合わせを行った。

講義は、スミッツ氏から私の紹介に始まり、学生、院生を含む計16名の受講生を対象に以下の項目について実施した。

### 1、書について

- ・書道(日本)、書法(中国)、書芸(韓国)の呼称の違いや日本における書道、書写教育の違い等を説明
- ・2021年に日本国の登録無形文化財に認定され、伝統文化のひとつである「書」についての現状や活動等を解説。

### 2、スケッチブックを使用し、紙芝居形式の「文字の成り立ち(漢字、かな、カタカナ)」についての解説。

【参照資料A】

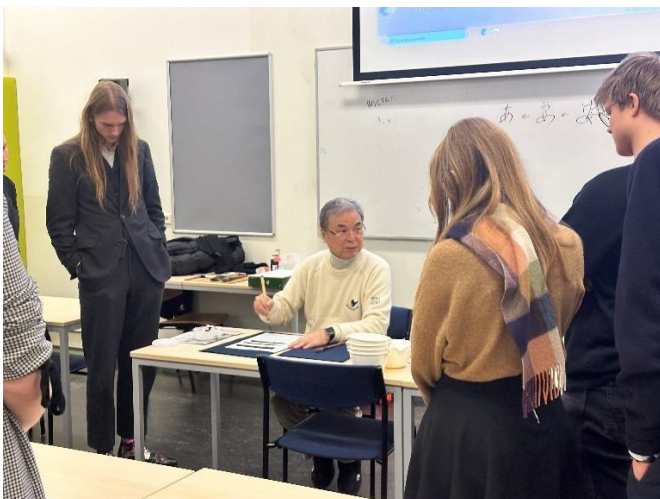
### 3、実技指導

- ・道具、筆の持ち方、姿勢等を説明
- ・基本的な筆遣い(縦画、横画等)に加え、毛筆による様々な表現方法(太細、遅速、潤渴等)の解説と揮毫

・各々筆の感触を体験しながら、基本点画や好きな漢字、ひらがな、カタカナを体験

以上、片付けまで約 2 時間の 1 回目のセッションを終了。

### 【実施風景写真】

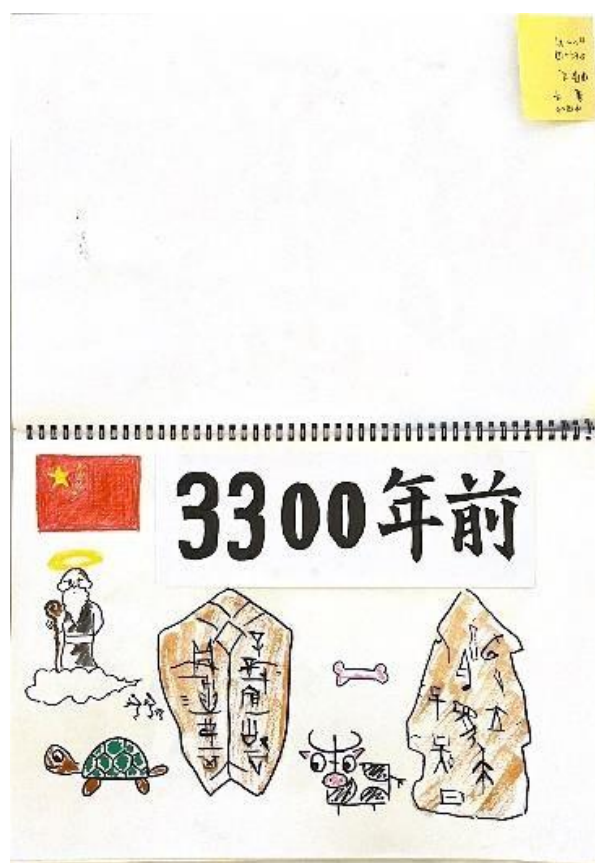




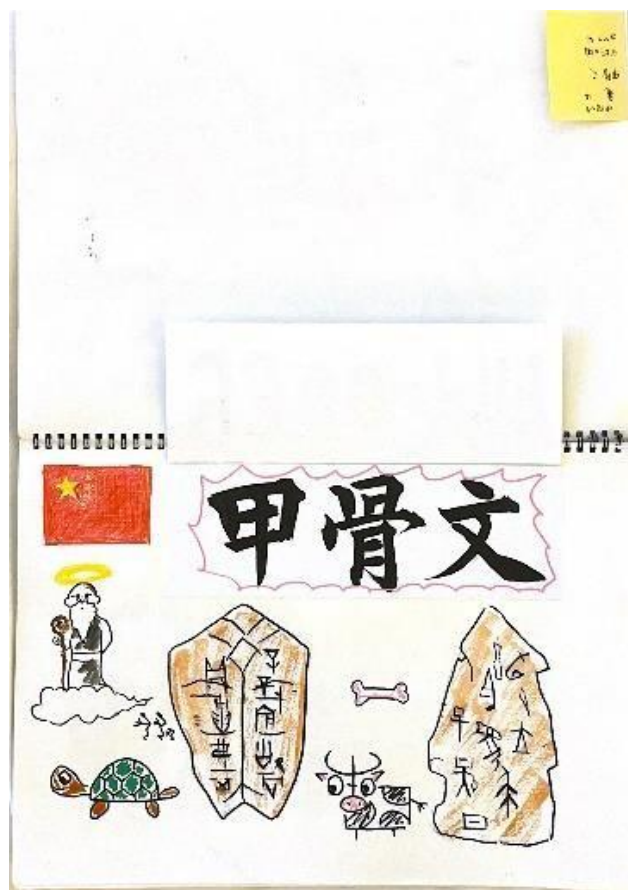
【参照資料A】紙芝居形式の「文字の成り立ち(漢字、かな、カタカナ)」



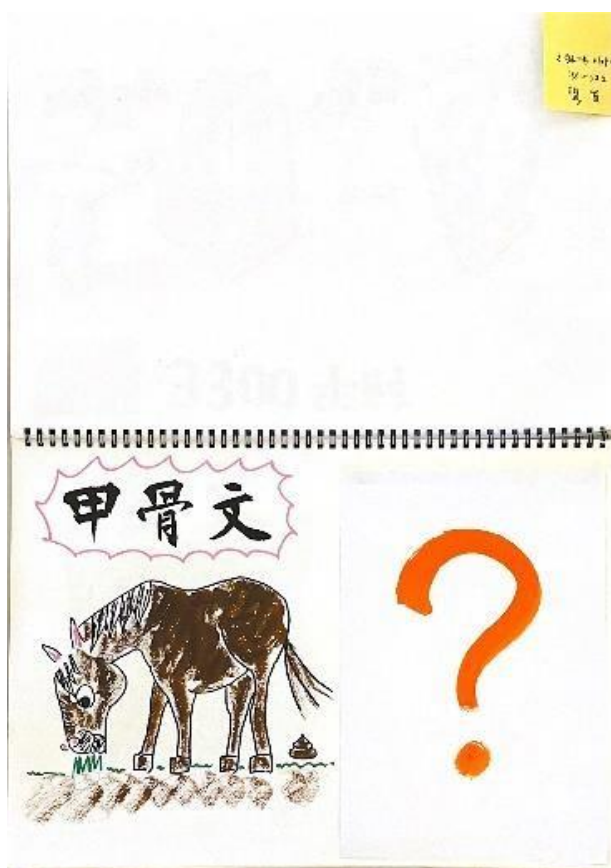
表 題「漢字の歴史」



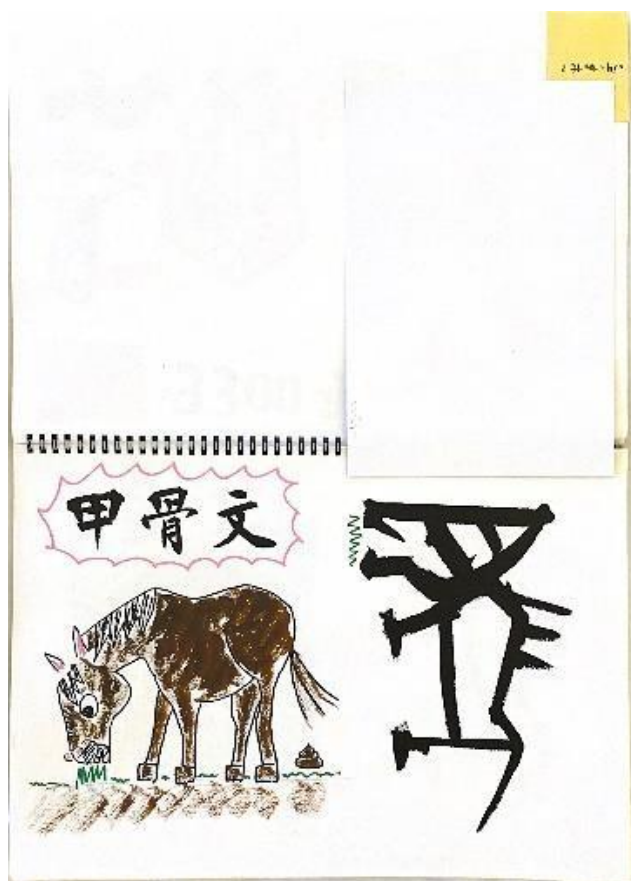
文字の起源



中国・殷(商)時代「甲骨文」



「甲骨文」どんな字形？



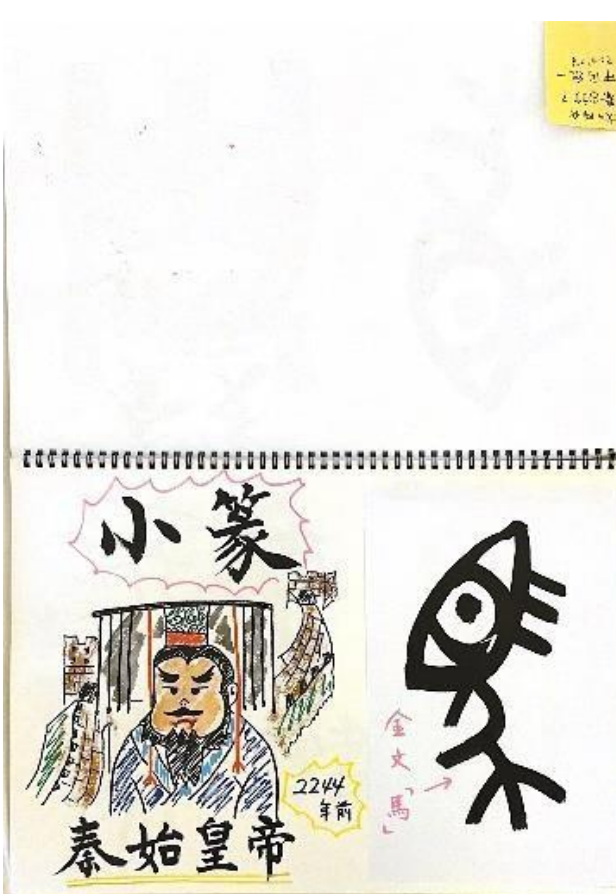
右側: 甲骨文字「馬」



殷後期～周時代「金文」

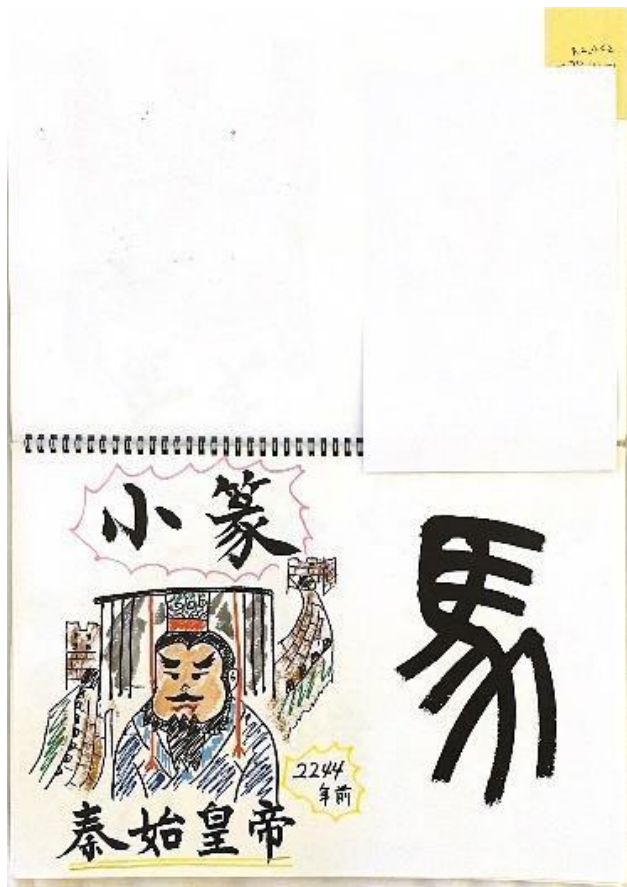


右側: 金文「馬」

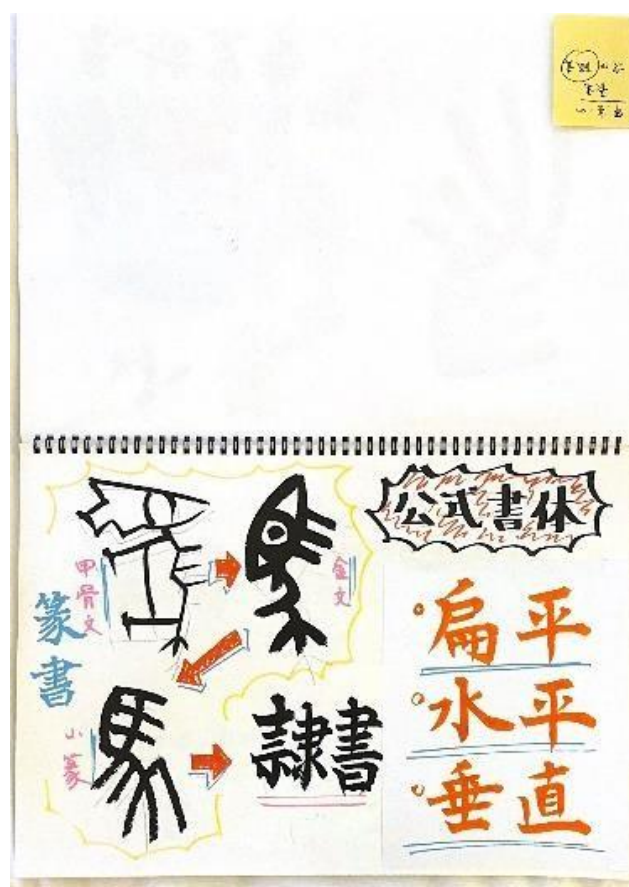


秦時代「小篆」

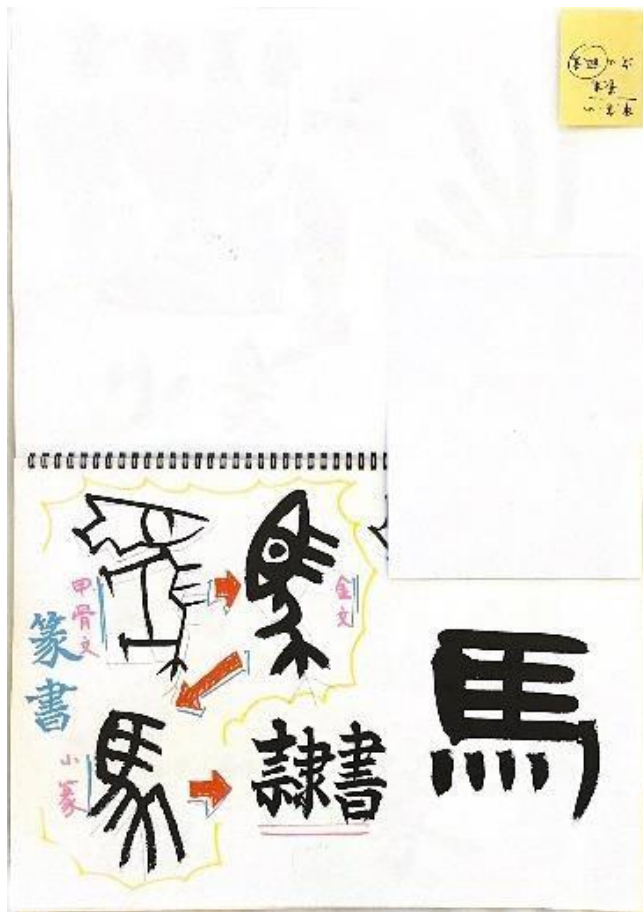




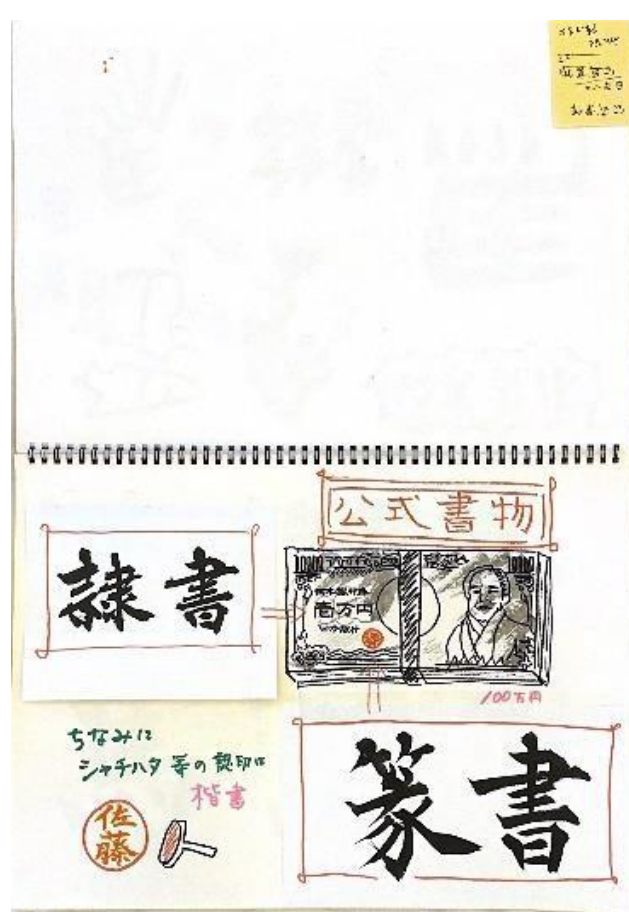
右側:小篆「馬」



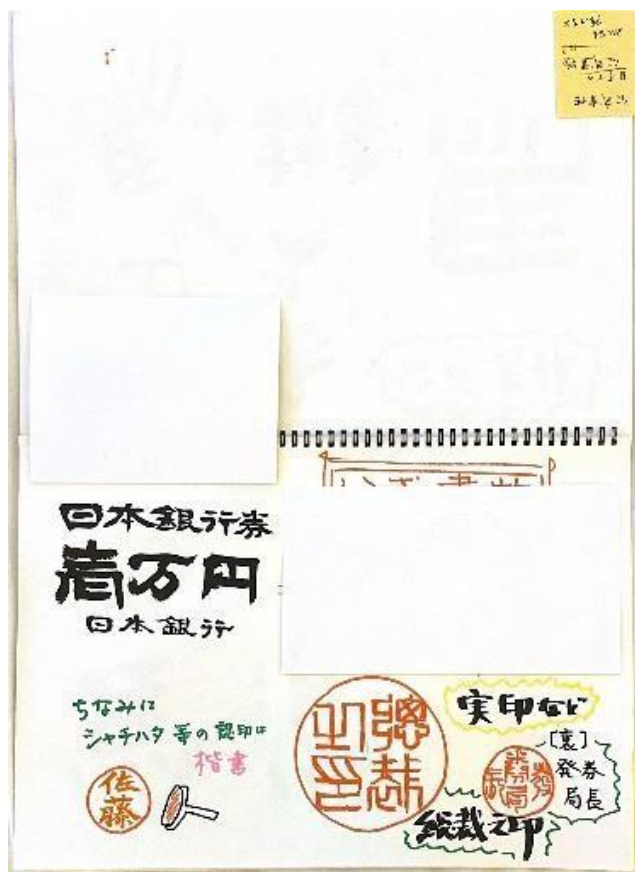
甲骨⇒金文⇒小篆の後、隸書の誕生



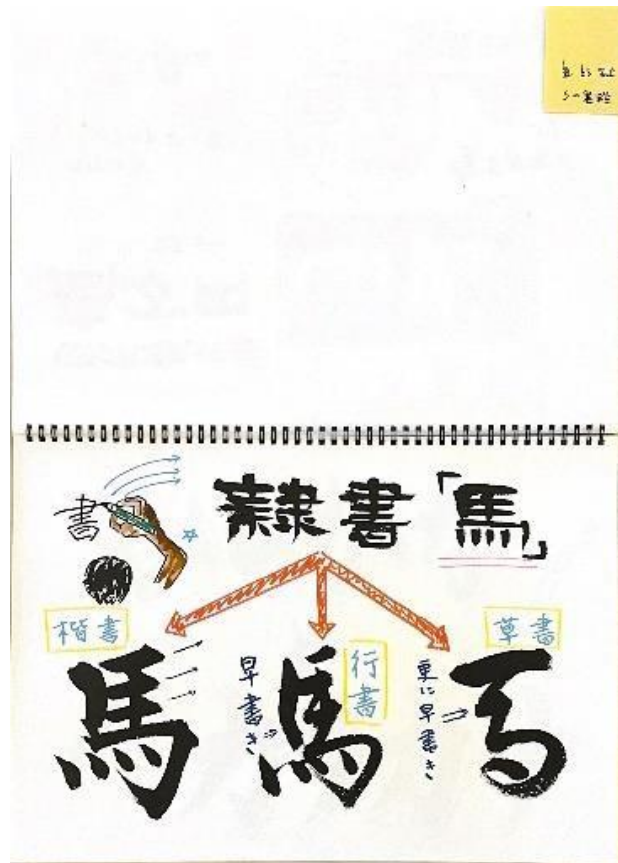
右側:隸書体「馬」



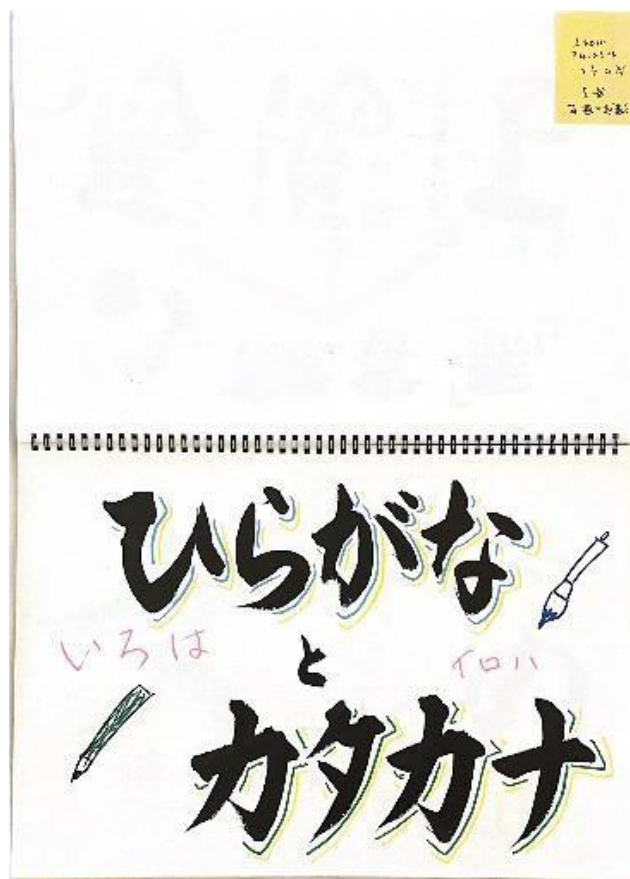
紙幣で用いられる篆書や隸書



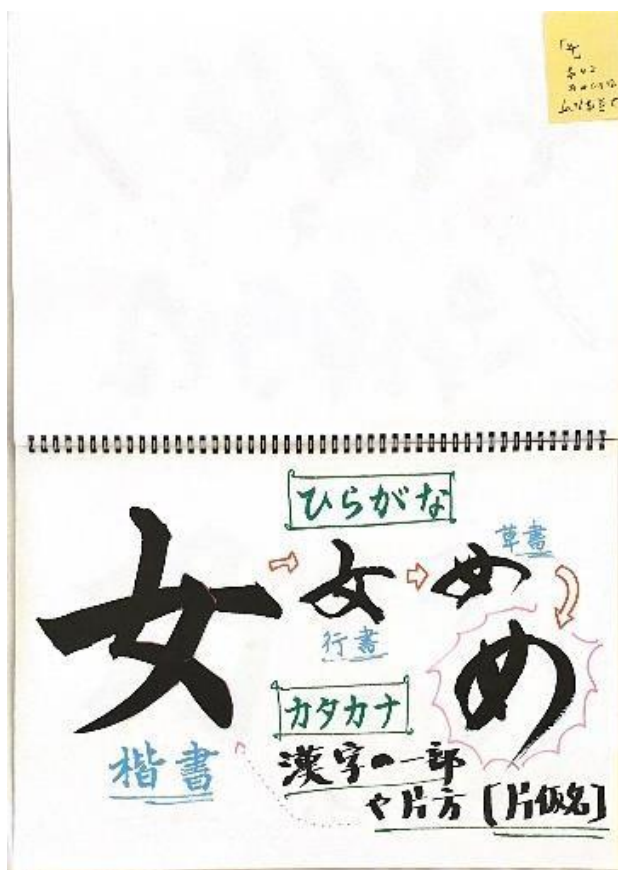
印鑑には篆書や楷書等も使用している



字形は隷書⇒草書⇒行書⇒楷書と発展

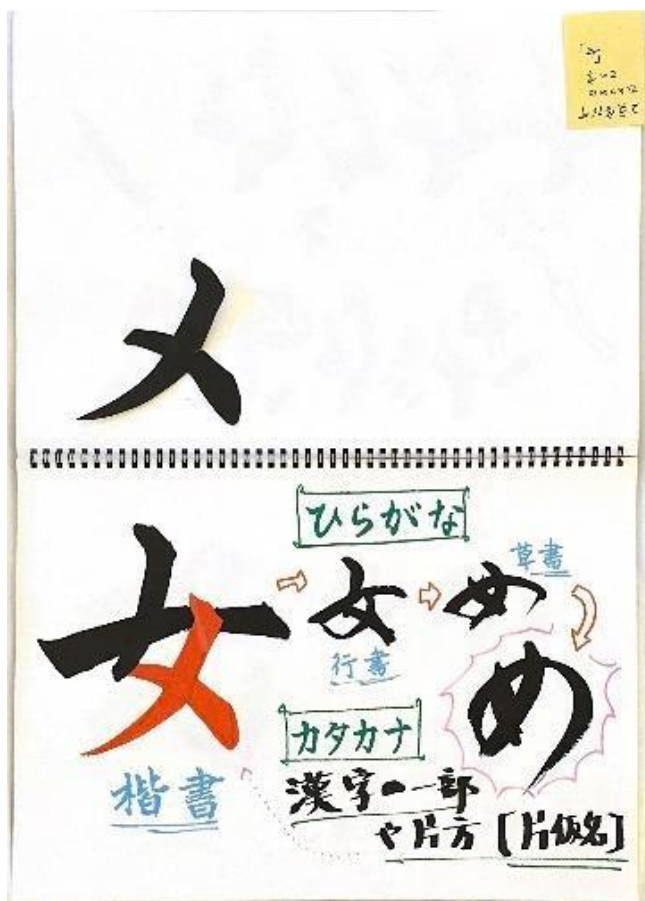


表題「ひらがなとカタカナ」

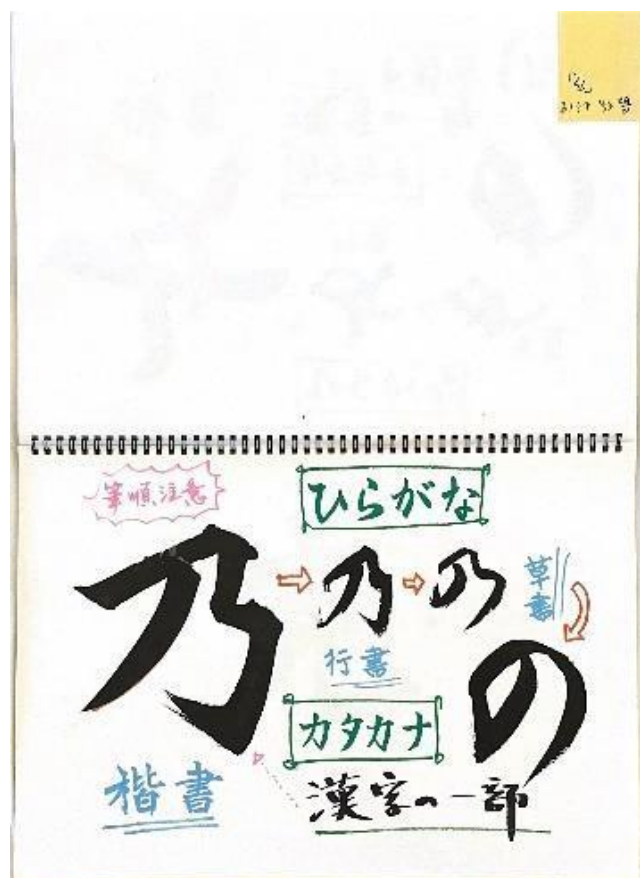


ひらがな「め」の説明

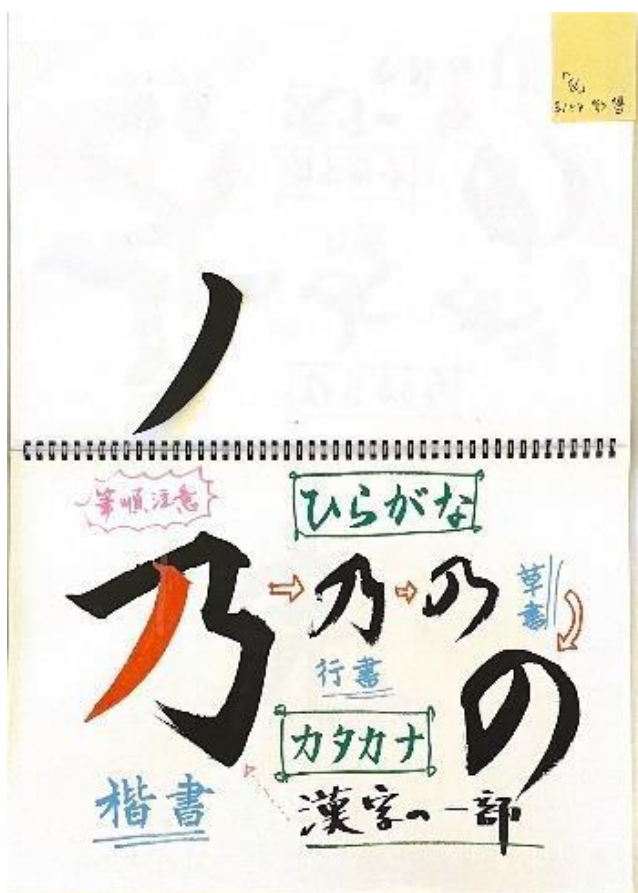




「女」字の赤字部分よりカタカナの「メ」となる



ひらがな「の」の説明



「乃」字の赤字分よりカタカナの「ノ」となる



完



## 12月7日(木) セッション2回目 17:15～19:00 [受講生 16名]

17:00 講義開始。先日同様に通訳はスミツ氏。講義内容は以下の通り。

### 1、文房四宝の展示及び解説。

「文房四宝」とは、書における道具(筆、墨、硯、紙)の4つを指す。この語は宋代の著録に存在し、長い歴史がある。文人にとっての書斎は重要な生活の場であり、当然好ましい文具が要求された。よって中国において重要な文具を象徴的に「文房四宝」と言われる。このうち墨紙は消費財であり、筆もまたそれに近い。しかし硯は永久使用に耐える道具であるため古いものも一番多く残っており価値が高い。今回持参した私物とこの講義の為に購入した道具類を机上に陳列し、硯、墨、筆、紙の順で解説。硯は「端溪硯」(発掘場所:広東省)、「歙州硯」(発掘場所:安徽省)7種や墨は、明時代の名墨「百子図」等9種、紙は唐時代から生まれた蠟箋をはじめ絹本や煌びやかな種々の紙を用意した。また、筆は様々な動物の毛を用いた10種を展示した。【参照資料 B】  
受講生は高い関心を持って熱心に鑑賞しながら私の解説に聞き入っていた。

### 2、墨の摺り方を指導し、体験後その墨を使用して今回解説した10種類の筆、様々な紙から各々好きなものを選び、墨の色や紙や筆による感触や線質の違いを体験し、記念として持ち帰った。

以上、セッション2回目終了。

### 【実施風景写真】

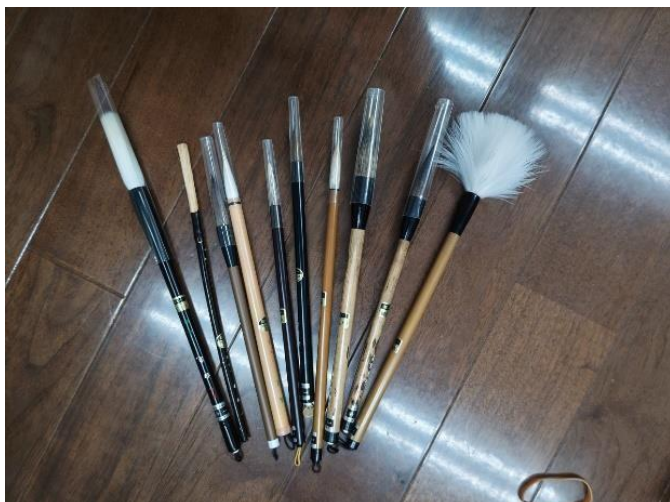




## 【参照資料 B】

### 筆

| 筆の名称        | 軸    | 毛質      | 用途          |
|-------------|------|---------|-------------|
| 慎道          | 棒軸   | 羊毛＋馬毛   | 漢字半紙用       |
| 九法筆(茶)      | ダルマ軸 | 馬毛      | 学童用         |
| 欧法筆         | 棒軸   | イタチ毛    | 漢字半紙用       |
| 石貮毫大楷       | ダルマ軸 | 純ムジナ毛   | 漢字条幅用       |
| 大 灰栗鼠筆      | ダルマ軸 | 黒 リス毛   | 漢字条幅用       |
| 極品 大 白狸毫 翠山 | 棒軸   | 白狸毫     | 仮名条幅用/漢字条幅用 |
| 辛卯 大 山兎毫    | 棒軸   | 野うさぎ毛   | 仮名条幅用       |
| 白亀          | ダルマ軸 | 純羊毫     | 漢字条幅用       |
| 鶏毛筆         | ダルマ軸 | にわたりの産毛 | 特殊筆         |
| 竹 筆         | 竹軸   | 竹       | 特殊筆         |





墨



「百子図」



「七香図」



「清・乾隆御墨」



明墨「有虞十二章」





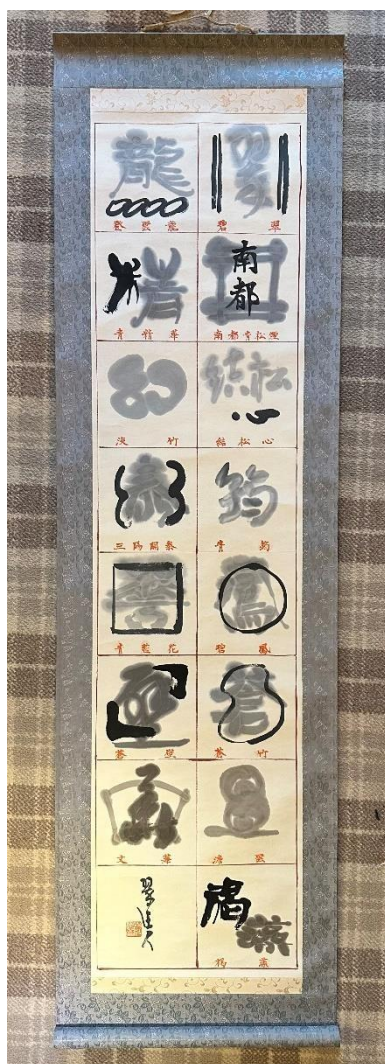
「乾隆御製魚墨」



「乾隆御製魚墨」



青墨、茶墨、墨(現在流通しているもの)



墨色見本軸



硯









## 紙



紙の原材料

12月11日(月) セッション3回目 13:15～15:00 [受講生 14名]

13:15 講義開始。

今回のセッションから作品制作に向けての実技指導を行う。これまでの2回のセッションでは、筆の持ち方や筆触など毛筆に慣れる事に重きを置いた。

今回は、漢字を書く上で必要な基本点画を用いた課題で筆遣いを指導しながら色紙作品を制作した。講義内容は以下の通り。

### 1、課題「一、五」

漢数字を半紙に練習し、起筆、送筆、収筆の筆遣いを指導。

### 2、課題「永」

「永字八法」と呼ばれ、書道に必要とされる基本技法8種類が全て含まれている「永」字を半紙に練習



し、特に線の太細や力強さ、勢いを意識して書くことを指導。

### 3、色紙作品制作

2で練習した「永」字を色紙作品に清書。また、残った色紙を利用して、それぞれ好きな漢字や言葉を色紙に書き作品を完成させた。名前は当字ではなくカタカナで受講生全員に手本を書き、落款を色紙作品に書き加えた。

3回目のセッションということもあり、学生は筆の扱いに慣れ、一生懸命取り組んでいた。字形の取り方も見事なもので、最後に完成した色紙作品1点を手に持ち集合写真を撮影し、本日の講義は終了した。

以上、セッション3回目終了。

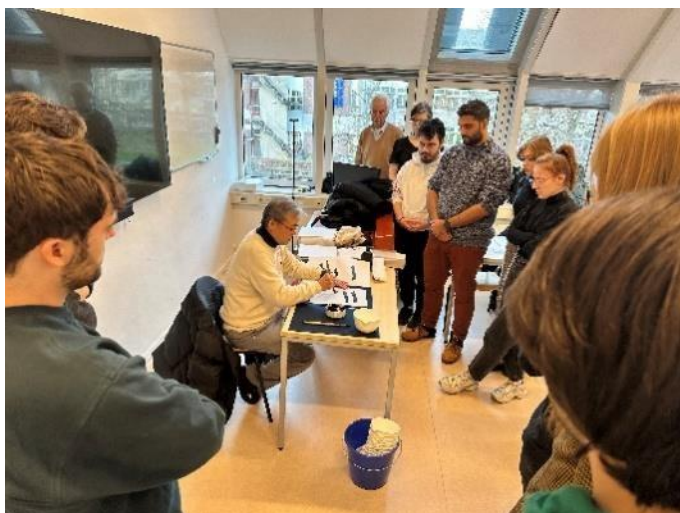
#### 1、課題「一、五」手本



#### 2、課題「永」手本



#### 【実施風景写真】





## 12月13日(水) セッション4回目 13:15~15:00 [受講生 16名]

13:15 講義開始

2 回目の実技指導はオリジナルT シャツを制作。

用意した教材は、中国殷から周時代で使用された篆書文字を用いた。文字は親しみやすく、象形文字として絵を描くような感覚で楽しめる動物「牛、鼠、虎、馬等」とした。受講生 16 名

- 1、題材である字形の理解を深める為、各動物の文字の成り立ちを説明しながら受講生の前で参考書きを行う。
- 2、動物や受講生が好きな書きたい漢字や書体の手本を書き、半紙に練習を行った後、T シャツに専用の顔料(黒)を使いオリジナル作品を制作、完成させた。

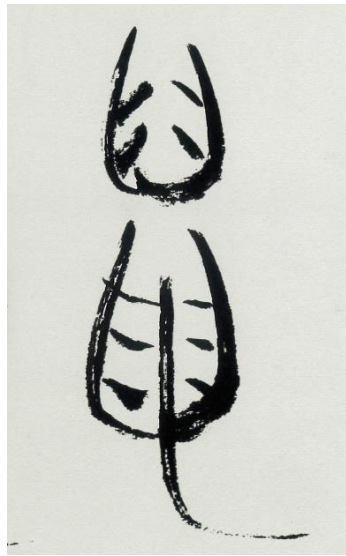
以上、セッション4回目終了



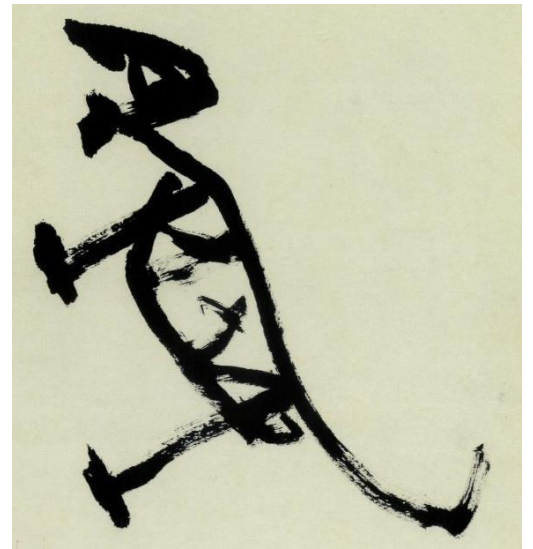
テキスト 動物(甲骨文字、金文)



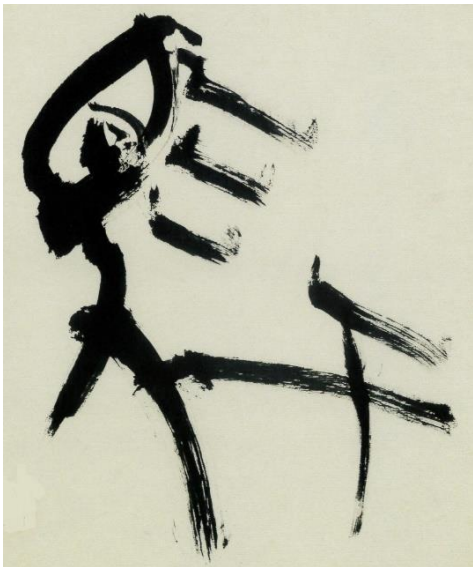
牛



鼠



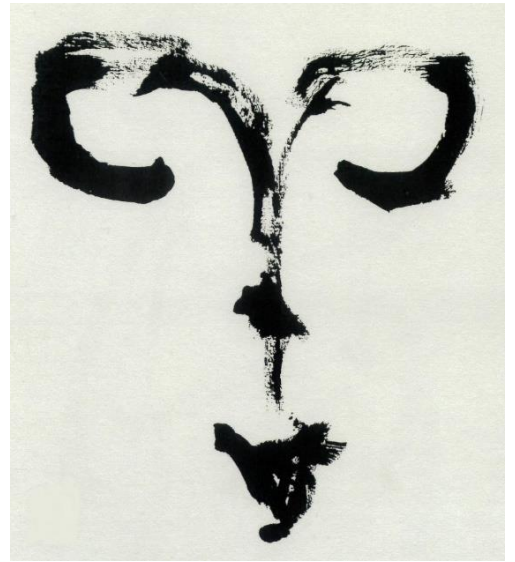
虎



馬



鳥



羊



馬



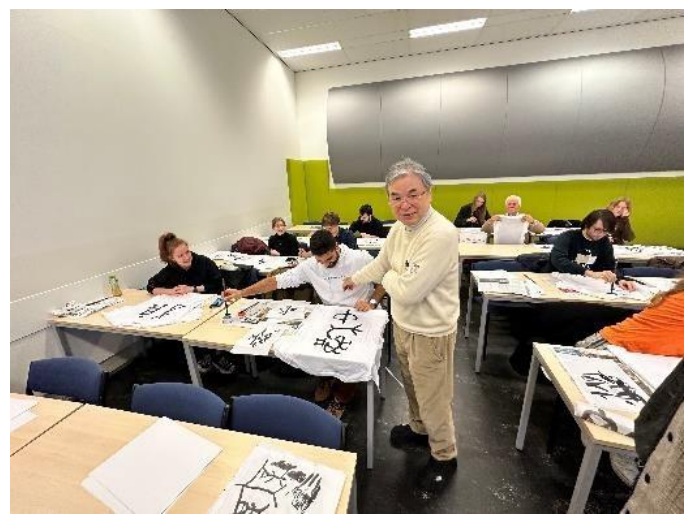
鹿



龍



【実施風景写真】







12月14日(木) セッション5回目 17:15～19:00 [受講生 16名]

17:15 講義開始。

今回は私が普段展覧会等で制作している作品の揮毫の姿をご覧いただきながら、一作一作解説を交えて鑑賞の講義とした。

#### 1、デモンストレーション

篆書、隸書、草書、行書など書体や紙のサイズを変えながら揮毫と各作品解説を行う。

#### 2、色紙作品をプレゼント

受講生1人1人に記念品として色紙作品を贈呈し、最後に集合写真を撮影。

以上、セッション5回目終了。

#### 【実施風景写真】







## ジャパン・アート・セミナー

12月16日(土) 午後12時30分～午後1時30分 来場者35名

会場:シーボルト・ハウス

最初にライデン大学教授イフォ・スミッツ氏から私のご紹介をいただきセミナーが開かれた。

今回の経緯と感謝の念の挨拶を終え本題に入る。

「書」については、セッション1回目で使用した紙芝居「文字の成り立ち、漢字・ひらがな・カタカナ」のスケッチブックをもとに来場者にわかりやすく「書」の素材となる文字についての解説を行った。その後、デモンストレーションを通して書芸術の魅力や作品制作意図などを伝え、質疑応答も交えながら揮毫した。

最後は、急遽来場者の方々に「ご希望の言葉の作品を書く」イベント的なことも行い、大盛況の裡、セミナーを無事終えた。



午後 2 時、セミナー終了

【実施風景写真】



最後に今回のジャパニーズ・アート・プログラム、ジャパニーズ・アート・セミナーに際して、多大なるご尽力を頂戴した美術文化振興協会名誉会長の小和田恆様、理事長の大津英敏先生、また関係者の皆様に心より感謝申し上げます。そしてオランダ・ライデン市の滞在中、ライデン大学中東・アジア地域研究所教授イフォ・スミッツ氏には、大変お世話になりました。重ねて御礼申し上げます。

今回貴重であり、有意義な機会を与えて下さいましたことに深謝し、今後この経験を書の普及発展にも大いに活かしていく所存です。本当にありがとうございました。